

母国の大切な文化、子どもへ

外国ルーツの生徒支援

外国にルーツを持つ子どもたちの交流会。保護者が各国のお正月の習わしなどを語った。佐賀市の本庄公民館(提供)



佐賀市 県内
外国にルーツを持つ子どもたちの交流会「さがわーるどりんぐ」が17日、佐賀市の本庄公民館で開かれた。年3回の交流会が10年続き、30回目の今回は、保護者たちが各国のお正月やお祭りを紹介した。

佐賀市で交流会 保護者が正月紹介

市民団体「佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会」が、学校では少数派でも同じ境遇の子とつながることでお互いのルーツに誇りを持つようと交流会を

開いている。県内在住の小学生から高校生までの20人と保護者10人のほか、ボランティアの佐賀大生や教諭らが参加した。

自己紹介やゲームを通じて親睦を深め、保護者が日本語や英語で「お年玉のやりとりはあるが、電子マネーが増えている」「(中国)、「(年越しの)午前0時の瞬間にジャンプすると背が高くなるといわれる」「(フィリピン)といったお正月の習わしなどを紹介した。国によっては、正月に類似する行事やお祭りを語った。

子どもたちからは「私の家では中国と日本の正月を交ぜたような感じで祝う」「伝統的な料理は人々の健康や安全、幸せを願うものが多いと分かった」との感想が寄せられた。

同会の松下一世代表(66)は「日本で育つ子どもはルーツの国をあまり知らなかったり、年頃になると違いをマイナスに捉えがちになったりする。親自身の言葉で大切にしている文化を伝え、心温まる交流会になった」と語った。

(宮崎勝)

